



www.FoEJapan.org

ロックバンド・レディオヘッドが FoE Japan の温暖化防止活動に協力

世界的なロックバンド・レディオヘッド (Radiohead) は、国際環境 NGO FoE Japan が行っている温暖化防止の法律の実現をめざすキャンペーン「MAKE the RULE」をサポートしています。このたび、4年半ぶりとなる来日ツアーを行うにあたり、レディオヘッドが FoE Japan の活動に全面的に協力することになりました。コンサート会場では FoE Japan が来場者に「MAKE the RULE」への参加を呼びかけ、署名活動を行います。

レディオヘッドは地球温暖化問題に率先して取り組んでいることで知られていますが、今回の FoE Japan への協力もその活動の一環として行われます。



1. 背景

レディオヘッドのフロントマン、トム・ヨーク氏は FoE 英国および FoE 欧州の温暖化防止の法制度を求めるキャンペーン「The Big Ask」を全面的にサポートしています。英国の「The Big Ask」では、トム・ヨーク氏がスポークスマンとして積極的にメディアに登場してキャンペーンの重要性を語り、多くの市民に参加を呼びかけました。その結果、世界で初めて政府に中長期の温室効果ガス削減を義務付けた「気候変動法案」ができ、間もなく法律として施行されます。

その後「The Big Ask」は欧州 17 カ国に広がり、今年 6 月から 7 月にかけて行われたレディオヘッドの欧州ツアーでは、各地のコンサート会場で FoE のメンバーが署名活動を展開しました。

2. レディオヘッドのアクション

レディオヘッド自身も温暖化防止のために様々なアクションをしています。昨年専門家に依頼しツアーからの CO2 排出量を算出して以来、CO2 量を減らすために多大な努力を続けています。

【別紙 2 「炭素のない世界で、Keep on rocking」】

ファンに対しても、コンサートに来るときには車を使う場合は相乗りにするか、公共交通を使おうと呼びかけています。コンサート会場は交通アクセスの良い場所ばかりが選ばれています。

4年半ぶりに行われる日本ツアーでは、10月1～8日にかけて大阪、さいたま、東京の3会場で6公演が行われます。このコンサートにおいて、レディオヘッドが英国や欧州と同様に、FoE Japan の活動をサポートすることになったものです。

トム・ヨーク氏は次のようにコメントしています。

「誰もがみんな温暖化に立ち向かうためにできることがあるんだ。僕らは僕らができることをしているし、ファンにも同じことをしようって呼びかけてるんだ。そして今こそ政治家がその役割を果たすべきときなんだ。なぜって僕らを助けるために社会構造を整えることができるのは、政治家だけだろ？だから僕は The Big Ask と MAKE the RULE をサポートするんだ。そして、温暖化問題のことを心配している人たちみんなに『一緒にやろう』って呼びかけることにしたんだ。僕らのコンサートに来てもらうとか、署名するとか、とにかくまずはウェブサイト (www.maketherule.jp) にアクセスしてみるといいよ。」



©Friends of the Earth

3 . FoE Japan による活動

FoE Japan は、2008 年 8 月、日本国内の他の NGO とともに、日本が確実に温室効果ガスを削減するための法制度づくりをめざして「MAKE the RULE」キャンペーンをキックオフしました。国会への請願署名を中心に、1 人でも多くの市民が声をあげることを呼びかけています。

トム・ヨーク氏が「The Big Ask」同様に、日本で行われる「MAKE the RULE」へのサポートを表明していることから、今回の来日公演における活動が実現することになりました。FoE Japan は、コンサート会場の来場者に対してキャンペーンについて説明し、署名活動への参加を呼びかける予定です。

【別紙 1 「MAKE the RULE」と「The Big Ask」】

4 . 活動の詳細

レディオヘッド日本ツアー、及び FoE Japan の活動の日程・会場は以下の通りです。

- 1) 10 月 1 日 (水) 大阪市中央体育館
- 2) 10 月 2 日 (木) 大阪市中央体育館
- 3) 10 月 4 日 (土) さいたまスーパーアリーナ
- 4) 10 月 5 日 (日) さいたまスーパーアリーナ
- 5) 10 月 7 日 (火) 東京国際フォーラム
- 6) 10 月 8 日 (水) 東京国際フォーラム

詳しくはこちら

<http://www.foejapan.org>

FoE Japan とは

FoE(Friends of the Earth)は、世界 70 カ国に 200 万人のサポーターを有する国際的な環境団体のネットワークです。

FoE Japan は、日本において、地球温暖化をはじめとする様々な環境問題の解決に向けて活動しています。

- <別紙 1 > 「MAKE the RULE」と「The Big Ask」
<別紙 2 > レディオヘッドのグリーンなツアー

【お問合せ窓口】

国際環境 NGO FoE Japan

気候変動政策担当：瀬口、中根

TEL:03-6907-7217 FAX:03-6907-7219

E-mail:softenergy@foejapan.org

<http://www.foejapan.org/>

別紙1 「MAKE the RULE」と「The Big Ask」

「MAKE the RULE」

MAKE the RULE は、日本において温室効果ガスを確実に削減するために中長期の目標とその道筋を法律として約束することを、日本政府に対して求めるキャンペーンです。2008年8月にキックオフし、署名をはじめとする様々な方法で一般市民からの声を国会議員や政府に届け、京都議定書の次の国際枠組みが決定する2009年末までの法制度の実現をめざします。

主要なメッセージは以下のとおりです。

1. 京都議定書の目標である6%の削減を守るのはもちろん、日本でのCO2などの温室効果ガスの中長期的な削減目標を定めること。
 - 2020年には1990年のレベルと比べて30%の削減をすること
 - 2050年には1990年のレベルと比べて80%の削減をすること
 - 2020年には一次エネルギー供給の20%を再生可能エネルギーにすること
2. 温室効果ガスを確実に減らすためのしくみ(ルール)を作ること。
 - CO2を減らす人・企業が報われ、CO2をたくさん出す人・企業には相応の負担を求める経済社会にすること(炭素税・排出量取引制度など)
 - 再生可能エネルギーを大幅にふやすしくみをつくること(固定価格買取制度など)

より詳しい情報はこちら

www.maketherule.jp

「The Big Ask」

2005年イギリスでFoE英国(Friends of the Earth - England, Wales and Northern Ireland)が開始したThe Big Askにおいて、トム・ヨーク氏は、スポークスマンとして積極的にメディアに出演し、気候変動法案の導入の必要性を訴え、市民に参加を呼びかけました。キャンペーンには20万人以上が参加し、2007年3月、法案が発表されました。法案は現在国会で審議の最終段階に入っており、2008年末に法律として成立する予定です。これによってイギリスは、二酸化炭素排出量の削減を法的な義務として約束する世界で初めての国となります。

法案は、2050年に1990年比60%の削減や、5年ごとにイギリスが排出できる炭素量に上限を設け徐々に排出量を減らす「カーボンバジェット」制度、独立した気候変動委員会の設置など、革新的なものです。しかし、FoE英国はより強固な法律の実現に向けて、引き続きキャンペーンを展開しています。

より詳しい情報はこちら

www.thebigask.com

The Big Askの欧州キャンペーンは、ヨーロッパ17カ国のFriends of the Earthと一緒に行われます。それぞれの国では政府に対し、気候変動命令(climate changing commissions)によって法的に拘束力をもつ各年の削減を約束するように求めています。またヨーロッパ連合に対しても、加盟各国に対して排出量を毎年削減するように義務付けるべきだと働きかけています。

ヨーロッパ連合に対するThe Big Askは、ヨーロッパ域内での温室効果ガス排出量を2020年までに少なくとも30%、2050年までに90%削減することを求めています。

より詳しい情報はこちら

www.thebigask.eu

別紙 2

レディオヘッドのグリーンなツアー

カーボンフリーな世界で Keep on rocking!

(FoE 英国のインタビューより)

世界中で知られているロックバンドのツアーマネージャーの仕事と言えば、1回1回のコンサートでできる限り大きなインパクトを与えることでしょう。しかし、レディオヘッド(レディオヘッド)のプロダクション・マネージャー、リチャード・ヤングは正反対の問題を抱えています。彼はこれまで、レディオヘッドが世界ツアーを行うたびにできるだけ少ない影響に抑えるように努力してきたのです...環境に対して。

「これもみんな(レディオヘッドのフロントマンである)トム・ヨークが、The Big Ask キャンペーンに関わったことから始まったんだ」とヤングは言います。「トムは、ツアーをしたり、大勢の聴衆に生の音楽を聞かせたりする活動が、CO2 排出という観点からはマイナスの影響を与えるということに気がついたんだ。それで、何かしたいと思ったんだ。」

こうしてレディオヘッドは、バンドのツアー活動に注目し、すっきりとグリーンに活動できる方法を教えてくれるベスト・フット・フォワード(Best Foot Forward)という排出分析の専門家に報告書を作るように依頼しました。その報告書は、ファンが郊外で行われるコンサート会場に車で行くことが最も環境に負荷を与えることを明らかにしました。この情報だけでも、バンドはツアーのあり方を変えました。

ヤングは言います。「ヨーロッパの会場のほとんどは、公共交通でアクセスできる市街地にあるところを選んだんだ。」

レディオヘッドは、車の相乗りや公共交通の利用をすすめるための情報を提供するウェブサイトを始めました。さらには、「車は王様」とまで言われているアメリカでさえも、複数の人々を1台の車に同乗させて来た人は、無料で駐車場に停めることができるというインセンティブによって会場やプロモーターに相乗りを奨励させました。

ヤングは、レディオヘッドが、ファンに対して訴えかけと同様に、自分たち自身も輸送時に出す排出量を減らすことに真剣に取り組んでいると明らかにしています。

「昔は、20 トンもの機材を持って大陸間を飛行機で渡ることだって、レディオヘッドにとってはごく普通のことだったんだ」と彼は言います。「でも、それは明らかに大気中に二酸化炭素を撒き散らしているんだ。だから『飛行機は一切使わないようにしよう』ってことにしたんだ。」

輸送に船を使うこと、機材を二重にすることを徹底し、レディオヘッドはツアーから出す二酸化炭素の量を、通常に比べてごく少ない量へと激減させました。ヤングは「本当に必要な最低限のもの、基本的にはギター12本とノートパソコン2台くらいかな、それだけは飛行機で運んでいるよ」と言います。

ステージ上でも削減の努力は続きました。レディオヘッドの公演では、一般的に使われていて電気を浪費する白熱灯の代わりに、超高効率なLEDを照明に使用していて、革新的かつグリーンな特徴と言えます。もちろんエネルギー消費量を大きく節約したからと言って、レディオヘッドのロックパフォーマンスの素晴らしさが減るわけではないことは、誰の目にも明らかです。

(翻訳: FoE Japan 2008年9月16日)